

Rotary International District 2630 2018-2019

# 月信 MONTHLY REPORT

ガバナー

Rotary



インスピレーションに  
なろう

国際ロータリー 第2630地区  
2018-2019年度  
ガバナー 木村 静之

5  
May  
2019  
Vol.11



眼下に広がる大パノラマ(岐阜城パノラマ夜景)

## CONTENTS

- 青少年奉仕月間によせて……………P2  
2018-19年度 ガバナー 木村 静之
- タイ第3330地区 地区大会参加報告……………P3  
奉仕プロジェクト部門委員会委員長 宮崎 弘夫
- ガバナー補佐 一年を振り返って……………P4-6
- 地区委員長 一年を振り返って…………… P7-11
- 米山奨学期間修了式  
第2630地区米山学友会総会 開催……………P12
- 四日市北ロータリークラブ創立60周年
- (寄稿)ロータリアンとは……………P13  
松阪・東紀州グループガバナー補佐 濱田 直美
- 3月度出席報告……………P14
- 会員動静報告……………P15
- スキーの集い……………P16  
各事務所の案内

第2630地区のHPは  
スマートフォンでも  
ご覧いただけます





## 青少年奉仕月間によせて

2018-19年度 ガバナー

木村 静之

この月信5月号がお手元に届くころには10連休のゴールデンウィークが終わっており、ロータリーは今年度の総決算の時期に入ります。

5～6月は、ガバナー補佐が次期ガバナー補佐とともに各クラブを訪問し、クラブ会長さんとの間で今年度のクラブ事業の成果について意見交換します。各クラブの会長・幹事さんは、クラブの戦略計画とクラブの目標に照らして、今年度どうであったかをガバナー補佐と話し合ってください。明文化された戦略計画が作られていないクラブでも、それぞれ会長さんのビジョンや目標があったと思いますので、達成できたこと、できなかったことを振り返り、今後のクラブ運営に役立てていただきたいと思えます。そして、My Rotaryのクラブセントラルから、「ロータリー賞」の各項目に達成事項を入力してください。お願いします。「ロータリー賞」は、達成できるかどうかにかかわらず、各クラブの会員基盤の充実度や活性化の状況を把握するツールでもあります。

今月は青少年奉仕月間です。どのクラブも青少年奉仕の意義を十分に認識され、何らかの形で青少年の基本的ニーズを支援するプロジェクトを行っておられます。今後の事業を考えるとときには、当地区のホームページを参照してください。「ロータリー第2630地区」で検索できます。「各ロータリークラブの奉仕プロジェクト」のメニューで、財団補助金事業など代表的なものを紹介しています。他クラブで行われた事業を見ることはたいへん参考になります。

地区で青少年に関する常設委員会として設けてあるのは、青少年育成・インターアクト・ローターアクト・青少年交換の4部門です。青少年育成は、主として中学校や高校へ出向き生徒を対象に行う出前講座です。地域によってはたいへん積極的に実施され、教育委員会や学校関係者から高く評価され成果を挙げています（月信2月号参照）。インターアクトについては、当地区75クラブのうち34クラブがスポンサークラブとなって高校のインターアクトクラブを支えています。生徒たちは夏に韓国3600地区との間で相互訪問をしています（月信4月号参照）。ローターアクトに関しては、当地区内に大学や社会人をメンバーとする7つのローターアクトクラブがあり我々と同じように例会を行っています（月信4月号参照）。青少年交換は、米・豪・仏などとの間で1年間の長期交換プログラムが行われ、毎年7～8名の高校生を送り出しかつ迎えています（月信3月号参照）。これらのプログラムに関わった会員やご家族からは、それぞれたいへんなこともあったけれど子どもたちの成長ぶりに感動したとの感想が聞かれます。また、ロータリー財団奨学金の制度を活用して毎年4～5名の専門教育を受ける若者を海外へ送り出しています。さらに、米山奨学生も青少年を対象とした日本独自のプログラムです。これらのプログラムに参加した人たちはすべて「ロータリーの学友」と呼ばれます。

未来を担う若者たちを育成し応援するために、私たちは共に情熱を注いでいきたいと思えます。

## タイ第 3330 地区 地区大会参加報告

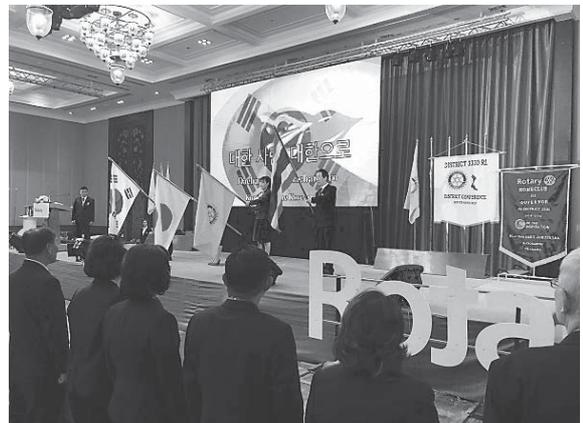
奉仕プロジェクト部門委員会委員長 宮崎 弘夫

2019年3月30日、タイ第3330地区の地区大会に参加してまいりました。

第3330地区はタイの中西部から南部マレー半島に至る南北に細長い地区です。この地区の地区大会には、昨年も一昨年も、当2630地区からガバナー等が参加しています。地区奉仕プロジェクト部門が推進する「グローバル補助金事業」の縁です（月信4月号参照）。他方、先方のバスターガバナー夫妻らも、こちらの2018年10月地区大会に参加されました。奉仕を志す相互の信頼が形として現れた瞬間でした。

今回私たちが参加した第3330地区の地区大会では、特別に私たちにスピーチする時間が与えられ、木村ガバナーの名代として全体会議の場で第2630地区の奉仕の心を話すことができました。会場に集まったタイ国ロータリアンには、私たちの奉仕の心、すなわち人や地域への「愛」を理解していただいたと確信しました。

何をしたかではなく「何のために」それをしたか、常にこの知られた言葉を胸に納めながら、私たち奉仕プロジェクト部門は、地区内クラブにロータリーの奉仕をお勧めしてきました。今期で私は委員長を退任しますが、今後とも地区各クラブが人や地域への「愛」を育まれることを祈念し、ご報告とさせていただきます。



# ガバナー補佐 一年を振り返って



桑員グループガバナー補佐

蛭川 矩行

この一年を振り返って、桑員グループのガバナー補佐として、木村ガバナーに充分なお手伝いが出来なかったことを反省しております。会員増強及び、財団等の寄附についても充分とは言えず残念でなりません。これも徳のなさを感じるしだいでもあります。

又、IMについても参加者の少なさにも、ガバナー代表幹事様にも申し訳ないと思っています。

2017年の11月以降、AGとして何回も研修に参加しましたが、他の人にロータリー精神を伝えることが出来ず、反省の連続です。しかしながら、こういう機会を私に与えて下さった桑員グループのロータリアンに感謝しております。

最後に、次期ガバナー補佐の坂 新太郎さんの活躍を祈念しております。



四日市グループガバナー補佐

田中 清平

一年間ありがとうございました。木村ガバナー、問宮地区代表幹事はじめ地区の皆様、そして四日市グループの各会長、幹事様には大変お世話になりました。また、各グループのガバナー補佐様たちのご協力や皆様のお力添えもあり、なんとかガバナー補佐という大役を終えようとしております。木村ガバナーの方針やロータリーの奉仕の理念を皆様にも少しもお伝えできたのかなと思っています。

当初の目標を未だ達成できてはおりませんが、目標の一つでありました増強に関しては、ほぼ順調に推移しております。仲間を増やしていただくことが大切な事である、と改めて感じさせていただきました。また、例会の出席において、学び合いながら信頼を深めていくという方針も、基本的なことながら大事なポイントになるということも実感いたしました。多くの良き仲間と奉仕の理念に基づき、行動していくことの意味や大切さを改めて教えていただきました。

グループ内のクラブ訪問や他地域のIMへの参加、そして地区の委員会の皆様との懇談を繰り返すうちに、自分自身も成長させていただきました。これからのロータリー生活や自分自身の人生の指針にもしていこうと思っております。ありがとうございました。



鈴鹿・亀山グループガバナー補佐

村山 竹則

2018年-19年度、木村ガバナーの補佐として一年間務めさせていただきました。

RI会長のテーマ、木村ガバナーのテーマ「理念をかかげ意欲を喚起し共に行動」を実現するべく努力し「5つの重点目標」を軸に進めてまいりました。

7月にスタートをし、グループ事業の1つおじさん先生から始まりました。

本年は3校より依頼があり大変好評をいただき又

生徒さんからも感謝の手紙も多数届きました。

8月に入りIMを開催させていただきました。ガバナー、パストガバナー、各クラブの皆様にご協力いただき盛大に開催出来ました。

特にディスカッションの「例会の充実」「奉仕活動の充実」「公共イメージと認知度の向上」のテーマにより今後のロータリーの戦略計画のヒントになったように思います。

期待と重責を果たせるだろうかと言う不安の中スタートをし、至らない所ばかりで満足していただけない運営が出来ませんでした。

ロータリアンの友情をもってお許しください。申し訳ありませんでした。

私自身、木村ガバナー、パストガバナーの皆さん、幹事の皆さん、ガバナー補佐の皆さん、そして5クラブの皆さんのご協力とご指導をいただき多くの人と知り合いすばらしい経験と勉強をさせていただきました。無事終わることができました。

貴重な一年、すばらしい一年を過ごすことが出来心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



中勢・伊賀グループガバナー補佐

西田 重好

本年度、バリーラシンRI会長の【インスピレーションになろう】、木村ガバナー【理念をかかげ意欲を喚起し 共に行動】、そして、中勢伊賀グループ【中勢伊賀は一つ、共にロータリーを語り行動しよう】をモットーに7月の期首訪問に始まり、ガバナー公式訪問、IM、地区大会、中間訪問と、各クラブ会長理事及び会員の皆様方と接する機会を与えて頂きました事を感謝申し上げます。

各クラブの特色を活かし魅力あるクラブと願う増強につきましては各クラブ2名以上、グループにて16名以上を目標とし、各クラブの協力の元、達成できそうです。

また、地区補助金申請が3クラブ、RI会長賞・ロータリー賞につきましては、6月末まで対象クラブが申請されることを期待しております。

1年間ではございますが、多数の皆様方と知り合ったことをプラスに活かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、地区及び各クラブの益々の発展を願っております。



松阪・東紀州グループガバナー補佐

濱田 直美

感謝の一年 この一年を振り返ると、感謝と感動体験の連続であったと思います。

前任者の百木PAGには、AGの業務に関する事で年度変わった後にも何かとお世話になりました。長井会長の松阪RCでは厳粛な「これこそロータリークラブの例会」を、北会長の松阪東RCでは「明るく華やかで美しい例会」を、越山会長の松阪山桜RCでは「楽しい上にアフター付きの和やかな例会」を其々体験させていただきました。そして

尾鷲RCでは、「行動力ある精鋭によるアットホームな例会」を体験させていただきました。熊野RCでは、山門会長はじめ大崎IM実行委員長やクラブの方々にIM準備やら手続きやらいろいろとお世話になりました。結局台風の影響によりIMの開催ができなかったのが唯一の心残りです。自分自身がインスピレーションになれたかどうかは分かりませんが、AGとして活動する機会を頂いたことで多くのインスピレーションを受けたことには間違いがありません。そして最後に木村DG、間宮代表幹事、地区幹事の皆様、地区役員の皆様、ガバナー事務所土屋さん、地区事務所服部さん、地区内全てのロータリアンと関係各位に対し、熊野より友情と感謝と愛を込めて、一年間ありがとうございました。



伊勢・鳥羽・志摩グループガバナー補佐  
松本 寛

今年度も気づけば3/4 過ぎました。これまでご指導ご協力いただきました木村ガバナーをはじめ地区役員の皆様に感謝申し上げますとともに、暖かくお迎えいただきました、伊勢・鳥羽・志摩グループ各クラブの皆様、事務局の方々にも改めて感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

クラブ訪問は大変楽しい時間でした。それぞれのクラブには確りと個性があり、自律した活動をされておられます。奉仕活動をはじめ、財団寄付や女性会員増強についてもクラブそれぞれが決められることでもあります。

それにいたしましたとしても、入会させて頂きまして30年を過ぎましたが、私が知らなかったのか、ロータリーが変わったのか、ガバナー補佐をお引き受けて驚きましたことは、ロータリー活動での皆様の出張の多さ、時間と費用の掛け方でした。

心配になりましたことを書き残させていただきます。

1985年のポリオプラスプログラムからか、ロータリーの奉仕がI serve から We serve へ偏向して行く。

過去にこの問題は分裂により解決した筈ではなかったのか？

自分たちの募金なのに、毎年、会長と財団委員長が財団セミナーに2回ずつ出席しなければそれが使えない。しかも、大部分が奉仕の勉強でなく手続きの説明会である。

システムを簡略化したのではなかったのか。

ロータリーは「良い人を育てる」ことを目的としている。良いことが出来るのはその結果であるのではないか。

ロータリーとしての対外的な社会奉仕活動、ボランティア活動は、自己研鑽の手段であり、そこから学び取る事を目的とする。経済効率を無視して奉仕活動に膨大な人手とお金をかけるのは、その為ではないのか。

ロータリーのウェブサイトで各クラブの寄付額を公表することは、結果として競わせることにならないのか。

会員名簿を公開しなくなった。これでは何処の誰がロータリアンなのか分からない。

職業奉仕の理念を重んじないRIのCLPを受け入れてよいのか。

国際ロータリーの変化から目が離せません。

何れにいたしましても、無関心にこそ責任が有ると痛感いたしました。



岐阜Aグループガバナー補佐

小野 幸満

一昨年の7月に次期ガバナー補佐としての第1回目の研修が始まり、プレッシャーを感じた中でスタートでした。何回かの研修を受け、そして地区主催各委員会セミナーに出席をして昨年7月にガバナー補佐としての役目を務めることになりました。

期首クラブ訪問も全部終わっていない中、また年度開始早々皆様お忙しい中、地区のトップを切り7月14日(土)にIM並びガバナー公式訪問合同例会を開催しましたところ、ガバナー、地区役員、クラブ会長・幹事そして会員の皆様には大変ご協力いただきました。多くの方の出席の中で開催できました事に心から感謝申し上げます。

昨今、ロータリーの変化についていろいろな意見がありますが、私は木村ガバナーの今年度のテーマ「理念をかかげ 意欲を喚起し 共に行動」と地区重点目標の第1番目に掲げてあります「奉仕の理念」の浸透と例会の充実」を岐阜Aグループ各クラブに伝え、日本のロータリーの伝統を守る重要性をお話してきました。

中間クラブ訪問も終わり、期末クラブ訪問と地区役員引継ぎを残して任期を終えます。ガバナー補佐としてこれで良かったのかと疑問を感じる事が多いのですが、これまで多くの皆様に支えられ貴重な経験をさせていただきました事に心から感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。



岐阜Bグループガバナー補佐

近藤 浩史

ガバナー補佐に就任する前の昨年5月に、岐阜Bグループの6クラブの例会に訪問し、今まであまり意識しなかった各クラブのクラブ運営や例会の運営について、大きな違いのあることを知り驚きました。その理由は、やはり10数名のクラブから100名を超す会員がいるクラブが岐阜Bグループにあり、第2630地区でも一番会員数に差があることだと思いました。

この経験をもとに、ガバナー補佐としてテーマを「岐阜Bグループの融和、学び」としました。他のクラブにメークアップに出かけるなど積極的に交流することによって、大きな学びを得ることが出来る。このことを各クラブへの訪問時に必ず挨拶などでお話をさせていただきました。

また、IMにおいてもそのテーマのもと、横浜ロータリークラブ所属の北原照久氏に講演を賜り、その後の懇親会でもロータリーバンドのメンバーとともに演奏していただき、会場を盛り上げていただきました。

この盛り上がりの中、参加した6クラブの会員の

# ガバナー補佐 一年を振り返って

皆様が他のクラブの会員と交流を出来たのではないかとと思っています。

このようにガバナー補佐としての1年間は、様々な経験ができ私のロータリー人生においても非常に良い機会を得ることができた1年だったと感謝しています。



岐阜西濃グループガバナー補佐

加藤 伸明

地区内最多の9クラブを擁する岐阜西濃グループのガバナー補佐を拜命し、どうなることかと心配していました。就任前の研修でも知らなかったことが多く、不安は募るばかりでした。

年度がスタートし、各クラブを訪問するにあたり、RIのテーマ、木村ガバナーのテーマを再認識してもらい、それに沿った内容のIMを開催することを伝え、協力を要請しました。

そのためにも自らがインスピレーションとなって感動体験を伝えなければと思い、私の岳父がロータリーアンとして活躍し、多くのよき友を得ながら、私が関わっていたボーイスカウトの活動にもクラブを挙げて支援をしてくれたことなどから、「天寿退会」の後、ごく自然に自分がクラブに入会したいきざつなどを話しました。

この話の効果はともかく、ベテランから新人会員に至る各クラブの代表による感動体験の披露を中心としたIMは、実に生き生きとした内容で成功したと思っています。

何よりグループ内の全会員の理解と協力があつたからだと心から感謝しています。

クラブ訪問で、これまであまり知る機会がなかった各クラブの様子が分かり大変勉強になりました。そして会長、幹事さんとの懇談会で、皆が自分のクラブを愛し、特長を伸ばし、問題点の解決に取り組んでいる熱意を感じました。この熱意こそ、これから益々求められるクラブの独自性を発揮する原動力となるものと実感しました。



岐阜東農グループガバナー補佐

水野 五郎

ガバナー補佐の任期も残すところ後数ヶ月となりました今、緊張をしながら8クラブへの期首クラブ訪問を行いました事を大変懐かしく感じております。また11月10日(土)に開催をしましたIMには、岐阜東農グループ8クラブから168名の会員並びに約140名の市民の皆様にもご参加を頂き無事終える事が出来ました。「地球環境問題、気候変動」という大変厄介な問題、しかし避けて通れない問題を私たち一人一人が考える機会になったのではないかと思います。

岐阜東農グループは、会長、幹事、事務局連絡会議を予定者の時期を含め4回行っており、それぞれのクラブの事業、問題点、地区への要望、質問等を話し合い大変意義のある会議になっております。

ガバナー補佐予定者の研修から約2年間、大変勉強になる事が多くまた素晴らしい出会いも沢山あ

り、私自身にとりまして何事にも代えがたい貴重な経験となりました。

最後になりましたが、未熟な私をご指導頂きました木村ガバナー、間宮地区代表幹事、パストガバナー並びに地区役員の皆様には厚くお礼申し上げます。又、岐阜東農グループ8クラブの会長、幹事、メンバーの皆様には頼りないガバナー補佐に対して温かいご支援、絶大なご協力を賜りました事、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。



東海北陸道グループガバナー補佐

可児 昌則

2018年7月より一年、東海北陸道グループガバナー補佐を務めさせて頂き大変良い経験をさせていただきました。自分の所属の各務原かかみのロータリークラブと各務原のクラブの事は分かって、他のクラブの活動内容等は知ることもなかったのです。ましてや各務原～郡上までのクラブは土地柄も、文化も気候も随分違いがあり土地よりの活動に違いもあり良い例会・活動を目で見て、耳で聞きこれからの私の活動に大いに役立つと思います。

2017年7月(一年前から)研修があり何でこんな前から研修しなきゃ行けないと思いましたが、一夜漬けの勉強ではなく少しずつ地区役員の心構えから勉強をさせてもらいました。パストガバナーの方々におかれては、それ以上の勉強をされていて頭が下がります。

この一年の間にIM、グループ内3つの周年記念式典に出席。グループ内でも特色有るところをみさせていただき良い勉強になりました。私には勉強の毎日でしたが、無事終わることができました。皆様のご協力で心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



濃飛グループガバナー補佐

内田 幸洋

昨年の5月のグループ内会長幹事懇談会に始まり、前任AGの井尾氏に同行し、例会場へと誘導と紹介をしていただきました。とても緊張しました。7月と8月の第1回目と第2回目のクラブ訪問は、各々例会の前に30分程度、会長、幹事との打合せ、事業内容の説明を受けました。各クラブとも地域に合った素晴らしい事業を展開していることに感心いたしました。このことを他のクラブにもなるべく多く伝えることに務めました。

10月のIMにおいては、グループ内会員230名のうち150名の参加をいただき、成功裡に終了することが出来ました。木村ガバナー以下参加いただいた方に感謝申し上げます。

しかしながら、私の勉強不足と知識不足が重なって十分にガバナーの心を会員に伝えることが出来たかどうか反省しております。また気負いが先行して空回りしていたことも多々あったことのように思います。

ここに無事任期を終えることが出来たことに皆様方に感謝申し上げます。



情報部門委員会 委員長

丸尾 謙二

途上国主体の国際ロータリーであるが、日本のロータリーを胸を張って堅持する

2016年の規定審議会では、RI理事会で例会出席を重視が、例会は自由で月2回以上。職業奉仕は、誰でも良いという事など驚きの内容となった。RIの規定審議会は、途上国会員の増加により「基本理念のない」「寄付だけロータリー」となっていくように決定されている。

ロータリーは、隣人に対し、博愛の精神でのぞむことをしている。しかし途上国会員が、援助をより多く得るために、規定審議会での決議を数でとるために、会員増加を容易にする仕組みを作り過ぎである。本当にロータリーの基本理念を曲げてもらっては困る。日本のロータリーは、100年の伝統に最も忠実であり、最も基本を大事にしている。胸を張って、世界に向けてその考え、その伝統を、発散し伝えて良いし、そうすべきだと思う。時流に流され、ロータリーの基本を片っ端から壊せば、行く着く先は、自ずから見えてくるように思われる。

また、日本もロータリー研修を少しずつしていかないと、誰もロータリーができなくなりクラブ崩壊する。各クラブに研修委員会を作ってください、ロータリーの研修をして、「奉仕プロジェクトを行う。」ようにしてほしい。また、先輩会員がロータリー研修を年間4～5回を行ってもらい、修了者には修了証を送る方法もある。それにより、先輩方は若い人たちとも懇親を深め、ロータリーは盛り上がり、会員定着と増加となると思う。(2700地区PDG廣畑富雄に感銘、一部引用)



公共イメージ部門委員会 委員長

土川 東

今年度より委員長を拝命し早くも1年が経とうとしています。

初めてのことがばかりで大変でしたが皆様のご協力により何とか終える事ができました。

今年度はまず、ガバナー事務所に協力頂き2630地区のホームページの活用の見直しをしました。ウェブサイト従来そのまま維持しURL (<https://www.rid2630.jp>)のみ新たに取得し、メニューを追加して過年度の記事を閲覧出来るようにしました。

他に、奉仕プロジェクトページを作り地区補助金事業・グローバル補助金事業等の活動を掲載するようになりました。

ウェブサイトやソーシャルメディアを活用して多くの活動を発信しロータリーの地域社会における奉仕活動と世界における人道奉仕、数多くの成功談を世の中に広く発信していければと考えています。

次にマイロータリーへの登録についてですが、全地区の登録率は28.66%で、2630地区は14.66%と低いため是非「マイロータリー」の登録への協力をお願いしたいと思います。

「公共イメージ」と「認知度」を両方向上させる上で最も効果的なのは私たちロータリアン自身の行動であると考えます。一人ひとりの会員が「世界を変える行動人(こうどうじん)」としてインパクトのある行動・活動を心がけましょう。

今後人道的活動への取り組みを広く知って頂けるよう認知度の向上に努めて参りたいと思います。どうぞ引き続きご協力のほど宜しくお願いします。



会員増強部門委員会 委員長

山本 和央

この一年間、第2630地区内のすべてのロータリアンの皆様方には、会員増強部門委員会活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお力添えをいただいたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

当初より木村静之ガバナーから地区重点目標「会員基盤の強化、意欲を喚起し」そこには、多くの会員が参加することを提唱されました。この熱意ある取り組み姿勢の中に一人でも多くの適格者にクラブに入会していただくため、そして、クラブ会員の減少を防ぐ為に、その関心を注いでいただきました。

「個々のクラブと、地区を活性化させて行くためには、会員増強と維持が絶対不可欠である」ことを申し上げます。クラブ間での温度差があるものの、当地区は会員増強・維持への意識が深まってきております。

「ロータリーの永遠の課題は、会員の増強と維持である」ことを忘れず、次世代を担って行く「会員の育成につとめなければなりません。何かを悔やむより、これから何をするかを念頭において行動しなければならないと思います。会員維持の基本は、「火の用心」と同じで、日ごろから「一声かけ、お誘いし、あなたが仲間であることを伝えましょう」を実践していただければと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。一年間本当にありがとうございました。



職業奉仕部門委員会 委員長

山本 和彦

7月に研修情報委員会・職業奉仕委員会との合同にて「Who is Rotarian」というタイトルでセミナーを開催しました。このセミナーに並々ならぬ心血を注がれてきたカウンセラーの服部芳樹PDGがセミナー直前に急逝されるという事もあり、急遽追悼セミナーという形に衣替えし臨みました。ロータリ

# 地区委員長 一年を振り返って

アンとはどんな人、現在のR Iの趨勢と日本のロータリーの伝統について、更には「私の考えるロータリー」として山形の鈴木一作P Gのご講演を頂きました。講演の中で職業奉仕を一本の木ではなく森に例えられたお話は斬新でありました。

三年任期委員長として昨年度はロータリーを、職業奉仕を難しくしている「ロータリー語」に焦点を絞り、歴史を遡り現代の言葉で解説をした「ロータリー語ときあかし辞典」を各クラブへ配信をしました。二年目の今期は、「日本のロータリーが継承する伝統」、その中核を成すものは「職業奉仕」と「例会」であるという服部P Gの思いをしっかりと堅持し、その辞典を元に思想的な、或いは仏教的な、または日本の家訓や商道徳から見た職業奉仕を探求しました。百人百様の難しいと言われる職業奉仕を、また、自らが所属しているロータリークラブの根本的な理念である職業奉仕を皆が自分の言葉で話せるように、わかりやすい職業奉仕の追求をさらに進めて参る所存です。今期も地区職業奉仕部門委員会へのご協力有難うございました。



奉仕プロジェクト部門委員会 委員長

宮崎 弘夫

ロータリーの「奉仕の理想」を戒律の如く教え込まれた後にクラブへ入会させていただき四半世紀が過ぎました。入会後はクラブ奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕と色々な分野の奉仕活動を経験させていただきました。クラブの実績のために、ロータリーの広報のために、と半ばロータリー旗を御旗に掲げて結果造りのためのような奉仕活動でした。

地区国際奉仕委員会委員に推薦され出向し、地区委員会が真剣に地区内クラブのために行う活動に、新たなロータリアンへ生まれ変わった自分に緊張したことを思い出します。国際奉仕委員会委員長を経て奉仕プロジェクト部門委員長を仰せつかった時に「奉仕は事業ありきではなく、まず人や地域へどれだけの愛があるかが大切です」と教えられ、目の霞が晴れわたった感動を受けました。以後、地区委員長として各クラブで卓話させていただくとき、私は必ず「奉仕は愛」という言葉をもって締めくくります。

過日、グローバル補助金事業を行ったタイ国第3330地区地区大会でのゲストスピーチでも同じ言葉をもって締めくくったとき、私は何かを達成した自分への愛を感じました。長い間地区委員としてロータリーを楽しませていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



社会奉仕小委員会 委員長

河野 等

・地区内クラブからの卓話は実施済み・確定分で8

件と倍増できた。ただし全て三重県のクラブからで、岐阜からの卓話の要請が1件もなかった。岐阜県の若手メンバーも増えており、2019-20年度は岐阜に拡大したいと期待している。

- ・今年度の地区補助金奉仕プロジェクトについては、財団部門補助金小委員会から、またその他の各クラブの実施予定のものについても早期に情報を頂ける体制ができ始めた。また今実施中の17件の地区補助金を利用した奉仕活動の実施結果を地区HPに速やかにUPして頂けるよう公共イメージ委員会と共に支援したい。
- ・昨年度から続けてきた三重県の湧水の災害時の活用を各クラブと共に完成させるため今後も努力したい。複数のクラブで有力な一つの湧水を地区の財産に仕上げたい。2カ所実現したい。
- ・2018年地区大会での少額義捐募金を全然復興していない広島県豪雨ための募金として直接自治体に送付。今後もタイミングの良い募金寄付についてガバナーと相談しながらトリガーをかけてゆきたい。
- ・3月、乗用車と植樹に関するアンケートを実施し全クラブから回答を頂いた。CO2排出抑制と災害時の電源確保に向けた意識の向上に寄与できるように、今後も継続調査を実施する予定。この分析結果はすでに皆様のクラブに発送直前である。



国際奉仕小委員会 委員長

篠原 一行

当委員会は、世界の恵まれない人々への支援をしようというロータリーの国際的奉仕活動をご理解頂き、それを積極的に実践しようと、各クラブでの卓話や地区研修・協議会等においてお願いしてきました。また各クラブでの国際奉仕事業に、資金援助が必要な場合その申請を受け付け、企画・内容等の審査を行い、5つのクラブ等に支給しました。

そして昨年来行ってきましたタイ国3330地区との共同プロジェクト事業、クラブ地方の小学校3校への水の浄化プロジェクト事業も完成、また3350地区との基本的教育と識字率向上プロジェクト事業（地区内3RCの共同プロジェクト事業）も完成して、共に2月に木村ガバナー・劔田PDG・山田PDG、地区委員会メンバー等々で、完成式典視察に行ってきました。

私たちはこれまでタイ国の2か所の地区とグローバル補助金事業を行ってきましたが、昨年10月の当地区大会には第3330地区からPeera PDG・令夫人・Patchara 元代表幹事の方々が、自ら望んで出席されました。地区大会の合間を縫って話し合いをした中で、何より嬉しかったのは、相手地区PDGが新しいプロジェクトを提案してきたことです。これは2630地区と3330地区が相互に信頼できる関係になった瞬間だと感じました。私たちは今後益々、支援を必要とする国々から頼りに、また信頼

されるよう、地区内各クラブに働きかけていきたいと思えます。



青少年奉仕部門委員会 委員長

伊藤 靖則

2010年、「青少年奉仕」はロータリー第五の奉仕部門となりました。

標準ロータリークラブ定款第6条には「青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者にとって、好ましい変化がもたされることを目的とするものである。」と記載されています。当地区においてもその目的を達成すべく「ロータリーアクト」「青少年育成」小委員会「青少年交換」「インターアクト」部門委員会をはじめ、各クラブ、ロータリアンの皆様が青少年の模範たるべく、多種の活動に熱心に取り組んで頂いてと思います。

初めて、青少年奉仕5委員会の合同会議を行い、奉仕部門合同のホームページを作成する事と、其々の委員会が連携して協力する事を確認致しました。

当地区には、現在7つのRAのクラブがありますが、歴史あるクラブほど会員減少に悩んでいます。高校のクラブとしてすっかり定着しています「インターアクト」とは違い、RAは、維持継続がとても難しくなっています。RAを盛り上げるためには、提唱クラブだけではなく、当地区すべてのクラブ、ロータリアンのご理解とご協力が欠かせません。所見のある若者は、すぐ近くにもいるはずで、積極的に青少年奉仕プログラムへの参加を呼び掛けて頂きたいと思えます。そして心をこめて若者たちを歓迎しましょう。



ロータリーアクト小委員会 委員長

伊藤 正純

委員長という大役を拝命しバタバタしながら早くも1年が経とうとしています。

皆様方には御支援と御指導を賜り誠に有難うございました。

ロータリーアクトクラブが初めてアメリカに発足して、今年3月で51年を迎え第2630地区では創立46年と歴史のあるクラブがあります。

現在、当地区にはロータリーアクトクラブが7クラブあり会員数は約75名が登録されており内2クラブが会員減少の為、地区行事に参加休止の状態です。30歳で卒業の条件と新入会員の入会が少なく歴史のあるクラブほど会員数が年々減少しております。

近年ではインターアクト年次大会等の行事に参加し高校卒業後もロータリーとの繋がりが切れない様にロータリーアクトのPRをさせていただいております。

ロータリーアクトクラブは、会員が中心となり企画から運営までボランティア活動を通じ地域社会に様々な貢献をしながら自分自身が学び成長していく団体です。

ロータリアン皆様の会社の若手社員教育にも大変適したロータリーアクトクラブです。

是非、入会のご紹介を宜しくお願い申し上げます。そして提唱クラブ以外のロータリアンの皆様もロータリーアクトクラブ活動に少しでも御参加いただき御理解と御協力の程、宜しくお願い申し上げます。



青少年育成小委員会 委員長

下田 徳彦

委員長最終年度として、次年度へのバトンを何とか渡せる形が取れました。これも偏に地区役員の皆様、委員会メンバーの皆様、そして所属クラブの皆様のご支援、ご協力があったからこそだと感じ、改めて感謝申し上げます。これまで出前講座の普及に取り組んできた中で、今年度初めてクラブの青少年奉仕部門委員長を対象としたセミナーを企画したことで、本事業への意識が高まり、卓話依頼も増え、実際に出前講座をはじめて実施されるクラブも現れました。また、青少年奉仕部門の4つの委員会が合同委員会を開催し、お互いの活動を理解しあって、協力体制が築けたことは、今後の活動にも大きく影響してくると感じております。また、教育行政との関係性も深まり、我々が各地で実施している出前講座の評価も年々高まっていると実感しています。最後になりますが、ロータリーが築いた組織力とネットワーク、行政との関係性、これらを活かした「青少年奉仕活動」が実現できれば、青少年奉仕部門のそれぞれの委員会活動も活性化され、地域における公共イメージと認知度の向上に必ずつながり、大きなプロジェクトに変わると信じています。



青少年交換部門委員会 委員長

永尾 壽啓

国際ロータリーが目指す世界平和の重要な一翼を担っている青少年交換委員会として、委員会メンバー、受入学生、派遣候補生、各クラブ関係者、ホストファミリー、保護者の方々と一緒になり事業活動を無事に進められてきたことに感謝いたします。

現在の学生状況は、夏期受入学生は2名、春期受入学生は4名、派遣候補生は7名の合計13名で、それぞれが充実した、価値ある1年にする為に、毎月オリエンテーションを開催してコミュニケーション力を習得してきました。また屋外に出て日本の知見を広げる「広島方面への夏期研修旅行」、加賀修PGのお世話になる「日本文化体験作陶研修」、「多地区合同白馬交換学生スキーの集い」、「虎溪山永保

# 地区委員長 一年を振り返って

寺における座禅研修」等の体験をイン・アウト交換学生全員で実践し、繋がりを深め、言葉の壁を越えた友情を築き上げています。

次年度派遣候補生募集を考えた活動として、委員会メンバーは、国際ロータリー青少年交換プログラムの有意性を多くの人に知っていただくように岐阜・三重県下の高校や教育機関等に足を運び、説明とポスター掲示を行い。充実した委員会活動を実践したことを報告いたします。



インターアクト部門委員会 委員長

布目 美智男

日頃よりインターアクトクラブの活動に際しご理解ご協力を賜り、本当にありがとうございます。今年初めての地区の委員長を拝命して緊張の連続でしたが、無事ここまで来ることができました。この委員会活動の中で重点的な韓国3600地区との交流事業においては、田山バスターガバナーや中井代表幹事に無理をお願いし、韓国3600地区の地区大会に参加することができたおかげで、韓国のインターアクト委員長に会えたことをきっかけに、LINEの同時翻訳機能を使うことにより、直接メールでコミュニケーションが取れるようになり、スケジュールの調整や派遣学生に状況についての情報交換が出来たことがとても良く、スマートフォンの機能に感心しました。また、鈴鹿高校の助田先生・益田清風高校の酒井先生に引率をしていただいたおかげで、生徒たちも安心して活動することができたことに感謝申し上げます。インターアクトの年次大会では高田高校と津北ロータリークラブの皆さんには、三重県開催のインターハイの最中にもかかわらず宿泊先の確保や会場の手配に尽力をしていただきました。

前任の榎原委員長の指導と、インターアクトクラブ委員の皆さんには、派遣並びに韓国派遣団の受け入れには多くの時間を割いていただき惜しみない協力をいただきました。

今年を振り返ると、ご縁をいただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。



ロータリー財団部門委員会 委員長

平井 義之

はじめての委員長拝命でしたが皆様のご支援、ご協力のおかげでなんとか初年度を乗り越えられそうです。ありがとうございました。

ロータリー財団へのご理解、ご寄付の増進、そして補助金の積極的な活用に関心から感謝申し上げます。

各クラブで展開されています人道奉仕の輪がさらに広がり、世界に提唱していますポリオ撲滅活動の

推進がロータリー財団の役割と考えています。

おかげさまで、現在第2630地区では18件の補助金事業と5名の奨学生が地域や世界で活動されています。引き続き来年度も23件の補助金事業申請と4名の奨学生の応募がありました。

これはひとえにロータリー財団の使命に対する各クラブの積極的なアプローチの賜物と重ねてお礼申し上げます。

今後共「世界でよいことをしよう」を合言葉に、さらなるご支援ご協力をお願い申し上げます一年のお礼とさせていただきます。ありがとうございました。



資金推進小委員会 委員長

本弘 路可

ロータリー財団資金推進小委員会は、ロータリー財団への理解と寄付の増進を進めていく委員会です。

新補助金制度が始まって6年がたちますが、まだまだわかりにくいと言われる補助金制度の理解と、その原資となる年次基金寄付（E R E Y 150：1人あたり150ドル以上）並びにポリオ+への寄付（1人あたり30ドル以上）目標を達成するために、年2回（7月・10月）のロータリー財団セミナーとクラブ卓話へ講師の派遣活動を計画し、皆様のご協力により予定どおり遂行することができましたが、E R E Y 150の目標達成とポリオ撲滅まではあと一歩です。

1930年、オハイオ州国際身体障害児協会へ500ドルの補助金にはじまり、過去も現在もロータリー財団への寄付は人道支援を中心とした世界平和を求める「未来への投資」とご理解いただき、さらなるロータリー財団活動へのご支援をよろしくお願い致します。



ポリオ・プラス小委員会 委員長

故金 正司

あつという間の楽しい活動の1年でした。今年度は世界ポリオデーをテーマにポリオデーの映像を紹介、ポリオ撲滅への認知度を高めて参りました。又、地区大会、月信でもお知らせしました通りポリオ募金活動に必要な横幕、バナー、募金箱、ポスターなどを小道具として製作、貸出しのリクエストに対応できる体制を整えて参りました。おかげを持ちまして各クラブで募金活動において多大な成果を報告頂きました。

日本のロータリーの基金は年間300万ドル（約3億3,000万円）以上をポリオ撲滅のために寄付を行っています。ゲイツ財団からこの金額の倍額のマッチング協力を頂いています。これまで125ヶ国、25億人の5才未満の子供達へ経口ワクチンの

接種が実行されました。歴史をつくるカウントダウンの言葉通り1983年から日本の東京麹町RCからこの事業が始まりました。残るポリオの野生株はナイジェリア、アフガニスタン、パキスタンの3ヶ国となり99%以上の成果が報告されています。そして毎年10月24日は世界ポリオデーが世界中で実行されています。引き続きポリオ撲滅と再発予防のためのワクチン接種が継続できますよう各クラブの皆様の人道支援に感謝申し上げ今年度の活動報告と致します。



資金管理小委員会 委員長

山田 正史

この1年間ロータリー財団の資金管理小委員会も皆様方から頂いた御寄付をしっかりと管理致しまして何事もなく皆様のご協力にて無事に終えることが出来ました本当に有難うございました。

皆様から頂いた御寄付により地区内のクラブが財団補助金を活用して事業を行う時には「授与と受諾の条件」をしっかりと理解していただき各クラブと地区との間で「MOU」の覚書きを交わして、実施される事業がより効果的にそして有意義に実践されるためのお手伝い出来るように頑張っておりましました。今後共何卒ご協力お願い申し上げます。

来期も同様財団のセミナーが2回御座います。一生懸命財団のメンバーが説明致します。ぜひ参加して頂きますようお願いいたします。



補助金小委員会 委員長

堀部 哲夫

2018年-19年も、補助金の応募が多く有りました。地区補助金19件、グローバル補助金1件、奨学生はグローバル補助金奨学生3名、地区補助金奨学生2名の計5件にも上りました。有難うございました。多くの申請書を見るたびに思うことは、「どれも素晴らしい奉仕プロジェクトで、ロータリアンってすごいな。」と言うことです。

そんな中、毎年補助金申請されるクラブと、一度も申請したことの無いクラブと極端に分かれて来ました。一度も使ったことの無いクラブにご意見を聞きますと、理由は二つでした。

一つは、手続きが難しいと思われること。二つ目は、規模の小さいクラブでは補助金事業のクラブ拠出金最低額\$1000(約11万円)を事業費から捻出するのが難しいことでした。

委員会ではこの問題を取り上げ、次年度の募集からクラブ拠出金最低額の見直しを行うこととしました。手続きについては、出来るだけ分かり易くしてきましたが、まだ不十分だったと反省しています。

今後も、多くのクラブに補助金を利用して頂けるよう改善して行きたいと思っています。

一年間、ご支援有難うございました。



米山記念奨学部門委員会 委員長

村瀬 祐治

当地区ロータリアンの皆様から沢山の寄付を頂き、今期は16名の米山奨学生を世話クラブへ配属させて頂きました。一年間を終えた3月の米山奨学期間修了式において、奨学生はお世話になった感謝の言葉と、大学の勉学・研究に専念できたことにお礼を言われました。カウンセラー・世話クラブの皆様ありがとうございました。

さて、寄付金は米山奨学会において約25年据え置かれてその後地区へ配布されます。今期の奨学金は岡田ガバナー年度に寄付された約3,036万円が基準となり奨学生16名、2019年4月からは釧田ガバナー年度に寄付された2,890万円が基準となり奨学生16名です。2020年4月からは田山ガバナー年度に寄付された3,378万円が基準となり奨学生は18名の予定です。地区への奨学生の人数は、寄付額によって決められます。毎年米山奨学事業にご理解を頂き寄付金が増えていることに感謝申し上げます。

2019年1月19日20日と奨学生面接選考会を開催し、応募者30名から13名を選出いたしました。

(継続奨学生3名も併せて16名)どのような奨学生を採用したのかで奨学事業の価値が決まると言われており、全国共通の評価項目に従って総合的に判断して公平に選考しております。

しかし「なぜ中国奨学生が多いの?」との声もあり、募集の段階で1ヶ国に偏らないように大学へ通知する必要がありました。そこで、昨年6月に「募集についての学校説明会」を大学関係者に集まって頂き開催いたしました。米山奨学事業の説明と応募者が1ヶ国に偏らないように、また、学校関係者の中には募集はアジア圏に限るとの誤認がありましたので、世界各国からの学生を応募してほしいと伝えました。その結果、中国籍合格者が62%から39%になりエジプト国籍などいろいろな国からの学生を選考することができました。

末筆となりましたが、今期木村静之ガバナーの指導のもと米山奨学事業が遂行できたことに感謝申し上げますと共に、各クラブメンバーの皆様・委員会メンバーの皆様の温かいご支援に感謝とお礼を申し上げます。

## 米山奨学期間修了式

3月17日、今期12名の米山奨学生期間修了式をカウンセラー出席のもと開催いたしました。

米山カウンセラーには木村ガバナーより感謝状を贈呈し奨学生には村橋米山理事より米山奨学生であったことの証明書をお渡ししました。

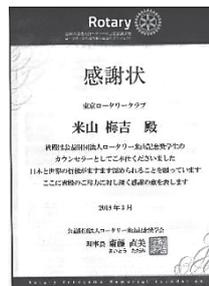
その後、それぞれから「奨学期間を終了して」としてスピーチを頂きました。

カウンセラーさんよりは、奨学生と一緒に活動した様子や地域の催事に一緒に参加したことなどの思い出をお話してくださいました。

奨学生は、奨学金を頂き大学の研究・勉学に専念できたこと、ロータリアンとの交流のことなど、暖かく歓迎して頂いたことなど、感謝の言葉を沢山述べられました。

将来、母国にて日本で就労できるように日本語学校を開校したい、また、将来ロータリーにメンバーとして入会したいとの思いを述べた学生もいました。

今後の進路については進学・博士継続者など大学に残る方が6名で、あと6名は日本で就職されます。



## 第2630地区米山学友会総会 開催

### 第2630地区の米山学友会の現状

米山奨学会の情報では、地区学友会が現存していることになっておりますが、実際には学友活動報告がなく、また役員構成も不明でありました。また、毎年13名位の米山奨学期間修了者がこの地域から巣立っておりますが、卒業後、学友が集まることなく、また、地区米山委員会・世話クラブ・ロータリアンとの交流もない状況です。

### ロータリー米山学友会の活動目的

米山学友会の活動の目的は、奨学期間終了後も元奨学生（学友）および現役奨学生とロータリアンとの交流を深め、ロータリーの理想とする国際交流と親善および平和の創造と維持に貢献することを目的とします。

活動は、学友および現役奨学生によって自主的に運営され、ロータリアンおよび奨学会が協力・支援いたします。

### 米山学友会の総会開催

今期米山期間修了者10名と継続奨学生3名が3月17日に総会を開催して、学友会会長を、管 浩然（カン・コウゼン）さん（世話クラブ志摩RC・奨学期間3年間・皇學館大学 博士号取得）とし、その他、副会長・幹事・会計を決められ、また、学友会の会則も承認されました。

管会長と役員が力を合わせて米山学友活動をしていくと所信表明されました。



## 四日市北ロータリークラブ創立 60 周年

開催日 2019年3月23日(土)

会場 四日市シティホテル

四日市北ロータリークラブは、今年度、創立 60 周年を迎え、2019年3月23日に四日市シティホテルにて、60周年記念式典を開催、森四日市市長、木村ガバナーを始め、多数のご来賓をお迎えし、姉妹クラブの台北信義ロータリークラブの皆様にもご参加を頂き、和やかに楽しい時間を過ごさせて頂きました。

記念事業は、四日市市の垂坂公園羽津山緑地に、新設のベンチを7基贈呈しました。当クラブでは、50周年の際に、桜の木を150本植樹し、その後毎年早朝例会として会員およびロータリーアクターと共に清掃活動を行って参りました。今回のベンチの贈呈で、垂坂公園が地域の憩いの場、里山としてより愛される場所になると考えています。

会員規模が少ない我が四日市北ロータリークラブですが、60周年の記念事業を通して、会員同士がより結束し超私の奉仕を率先し、地域にも会員にも愛されるクラブづくりをしていきたいと思えます。これからもどうかよろしくお願い致します。



## (寄稿) ロータリアンとは

松阪・東紀州グループガバナー補佐 濱田 直美

石垣DG年度、当時地区の社会奉仕部門委員長としてAG・CC会議へ行く途中で見た紳士の話です。その方は、近鉄名古屋駅の駅ホームゴミ箱前で困っているらしい老女性に声を掛けました。その女性が誤ってゴミと一緒に切符を捨ててしまったらしいと聞き、自分の衣服が汚れるのも構わずにその女性のためにゴミ箱に腕を入れて切符を探していました。その様子をたまたま後ろで見ていた私は、切符が見つかった時の様子も見ていました。女性は、とても喜んでその方にお礼を言っていました。紳士は笑顔だけ見せてさっさと行ってしまいました。その後AG・CC会議でお会いした伊勢・鳥羽・志摩グループの河口浩通ガバナー補佐がその人でした。この時のことは、ロータリアンとは、と考えるきっかけになりました。

ロータリーでは、様々な学ぶ機会があります。各種セミナーだけでなく、メイクアップ、例会出席、今年はガバナー補佐訪問で貴重な学ぶ機会が得られたと思っています。

先日息子に、「勉強したからプロでなく、勉強し続けるからプロ」と言われましたが、ロータリークラブに入ったからロータリアンではなく、ロータリーについて学び続けるからこそロータリアンなのだと教えられた気がします。

# 国際ロータリー 第2630地区 出席報告

2019年3月分

グループ	クラブ	出席率	例会数	会 員 数				期首からの増減	
				期首	うち女性	月末	うち女性	増	減
桑 名 員	桑 名	96.03	3	41	0	42	0	1	0
	桑 名 西	81.98	3	35	0	37	0	2	0
	桑 名 中央	80.96	4	27	1	31	1	4	0
	桑 名 北	97.92	3	32	8	32	8	0	0
	グループ計(4)	89.22		135	9	142	9	7	0
四 日 市	四 日 市	98.86	3	92	0	93	0	8	7
	四 日 市 北	81.06	4	22	5	23	5	1	0
	四 日 市 西	92.86	4	68	4	70	4	3	1
	四 日 市 南	81.75	4	37	3	39	4	2	0
	四 日 市 東	100.00	3	39	1	38	1	0	1
	グループ計(5)	90.91		258	13	263	14	14	9
鈴 鹿 亀 山	鈴 鹿	69.73	4	66	8	67	9	4	3
	鈴 鹿 西	63.78	3	40	7	40	7	1	1
	鈴 鹿 ベイ	64.10	3	12	0	13	0	1	0
	亀 山	70.00	4	14	0	13	0	0	1
	鈴鹿シティ	69.85	4	64	4	68	4	5	1
グループ計(5)	67.49		196	19	201	20	11	6	
中 勢 ・ 伊 賀	津	95.82	4	65	0	68	0	4	1
	上 野	96.76	4	40	1	41	2	4	3
	名 張	99.31	4	36	2	36	2	1	1
	津 南	92.95	3	49	2	50	2	3	2
	津 北	90.91	3	40	3	45	4	7	2
	上 野 東	100.00	3	40	3	40	3	0	0
	久 居	85.19	4	27	1	26	1	0	1
	名張中央	75.41	4	22	1	24	1	2	0
	グループ計(8)	92.04		319	13	330	15	21	10
松 阪 ・ 東 紀 州	松 阪	88.75	4	78	0	80	0	2	0
	松 阪 東	76.96	5	56	11	57	10	2	1
	熊 野	58.33	3	35	5	36	5	1	0
	尾 鷲	58.79	4	12	2	14	2	2	0
	松 阪 山 桜	82.46	3	38	4	38	4	1	1
	グループ計(5)	73.06		219	22	225	21	8	2
伊 勢 ・ 鳥 羽 ・ 志 摩	伊 勢	84.81	4	61	0	62	0	1	0
	鳥 羽	84.69	4	30	4	32	4	2	0
	伊 勢 南	89.26	3	43	0	41	0	1	3
	志 摩	79.61	5	48	11	48	12	2	2
	伊 勢 中央	92.87	4	50	0	49	0	0	1
	伊 勢 度 会	97.77	3	15	4	15	4	0	0
	グループ計(6)	88.17		247	19	247	20	6	6
三重県合計 (33)	84.23		1,374	95	1,408	99	67	33	
地区合計 (75)	82.44		3,131	156	3,210	170	164	85	

■ 2018年3月(前年度)出席報告

	出席率	期首	月末	うち女性	増減
岐阜県合計 (43)	82.64	1,747	1,796	59	49
三重県合計 (33)	86.05	1,339	1,388	98	49
地区合計 (76)	84.12	3,086	3,184	157	98

(注) グループ、県、地区の出席率は全てクラブ数で計算した。

グループ	クラブ	出席率	例会数	会 員 数				期首からの増減	
				期首	うち女性	月末	うち女性	増	減
岐 阜 A	岐 阜	86.92	5	83	0	82	0	6	7
	岐 阜 西	78.90	3	52	0	52	0	1	1
	岐阜長良川	90.07	4	49	0	50	0	1	0
	岐 阜 北	88.89	3	30	1	36	3	6	0
	岐 阜 中	80.95	3	26	1	28	1	2	0
	グループ計(5)	85.15		240	2	248	4	16	8
岐 阜 B	岐 阜 南	77.15	3	100	8	94	9	2	8
	岐 阜 東	80.88	3	48	1	49	2	4	3
	岐阜東南	80.79	3	38	0	38	0	1	1
	岐阜加納	74.51	4	70	2	77	3	8	1
	岐阜エトス	62.72	4	20	2	20	2	0	0
	岐 阜 城	90.38	4	15	0	16	0	1	0
	グループ計(6)	77.74		291	13	294	16	16	13
岐 阜 西 濃	大 垣	79.25	4	85	0	89	2	4	0
	大 垣 西	87.54	4	75	0	76	0	4	3
	本 巢	88.69	3	30	0	29	0	0	1
	羽 島	85.96	4	28	4	30	4	2	0
	不 破	93.37	3	30	0	31	0	1	0
	大 垣 中	79.89	4	42	0	49	0	7	0
	大垣センチュリー	80.46	3	49	1	55	3	6	0
	岐阜淡墨	100.00	3	15	1	14	1	0	1
	岐阜サンリバー	95.56	4	20	4	19	3	0	1
	グループ計(9)	87.86		374	10	392	13	24	6
岐 阜 東 濃	多 治 見	73.21	4	49	3	48	3	2	3
	中 津 川	81.31	3	74	2	73	2	1	2
	瑞 浪	69.30	4	57	1	57	1	1	1
	恵 那	71.52	3	45	1	50	1	7	2
	土 岐	93.49	3	41	1	42	1	1	0
	多 治 見 西	78.15	3	33	4	33	4	2	2
	中津川センター	74.31	3	48	1	49	1	2	1
	多治見リバーサイド	89.38	4	40	1	40	1	1	1
	グループ計(8)	78.83		387	14	392	14	17	12
	東 海 北 陸 道	美 濃	81.52	4	27	0	23	0	0
各 務 原		57.58	4	24	0	25	1	3	2
関		85.22	3	50	2	49	2	0	1
郡上八幡		95.60	3	40	0	39	0	0	1
関 中 央		80.00	3	32	0	32	0	2	2
郡上長良川		61.90	3	33	6	35	6	3	1
各務原中央		70.26	3	27	2	27	2	0	0
各務原かかみの		75.00	4	10	2	10	2	0	0
グループ計(8)		75.89		243	12	240	13	8	11
濃 飛		高 山	84.43	3	41	0	45	0	4
	下 呂	74.24	3	22	0	22	0	0	0
	高 山 西	81.88	4	40	0	40	0	1	1
	美濃加茂	77.38	4	37	7	42	7	6	1
	可 児	80.64	3	27	0	31	1	4	0
	高 山 中央	84.24	3	55	3	56	3	1	0
グループ計(6)	80.47		222	10	236	11	16	2	
岐阜県合計 (42)	81.03		1,757	61	1,802	71	97	52	

## 2019年3月分

### 入会会員

名張中央 RC	岐阜北 RC	岐阜加納 RC	岐阜加納 RC	大垣センチュリー RC	瑞浪 RC	郡上長良川 RC	郡上長良川 RC	高山 RC
								
三崎雅広 2019.3.6 入会 司法書士	中野直人 2019.3.6 入会 電気工事	稲木孝紀 2019.3.15 入会 自動車部品販売	呉直樹 2019.3.15 入会 生命保険	川合麻美 2019.3.4 入会 金属標識設置	渡辺正樹 2019.3.15 入会 機械配布	大西秀哉 2019.3.13 入会 温泉業	宮川賢司 2019.3.13 入会 地方銀行	原田勝由樹 2019.3.7 入会 日本酒醸造

### 逝去会員 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

伊勢南 RC	清水 明 1989.6.1 入会 2019.3.15 逝去 2008-09 年度会長
	



### 【表紙】

眼下に広がる大パノラマ  
(岐阜城パノラマ夜景)

撮影者 山口 忠幸

岐阜城天守閣から、クリアな空と  
360° 広がる岐阜市内とその周辺の  
パノラマ夜景を撮影しました。

### 岐阜城パノラマ夜景開催期間

4月27日土～5月6日 月・休の毎日	午後9時30分まで
7月13日土～8月31日土の毎日	午後10時まで
9月1日日～10月14日 月・祝の土・日・祝日	午後9時30分まで
12月20日金～12月22日日の毎日	午後8時30分まで

# スキーの集い

『第32回交換学生スキーの集い』が3月25日から27日まで長野県白馬山麓で開催されました。参加者は大きく増え、9地区の来日学生、派遣候補生、ROTEX、地区YECメンバーが集まる大規模な事業となっています。当地区からは総勢23名が参加し、大変お忙しい中、木村DG、辻GE、岡田PGにもご出席して頂き一層の盛り上がりを見せました。



この交換学生スキーの集いは、単純に学生がスキー、ボードを楽しむだけのものではなく、他に大きな目的があります。来日学生、派遣候補生は、ロータリーの交換学生事業が本当に世界規模の事業である事を再認識し、特に派遣候補生にとっては、ここに集った多種多様な人種・文化を体験する事は、日本の学生が持っている単なる留学と言う固定概念を打ち砕いてくれるよい契機になると考えています。

会場でのプログラムは次の通りでした。1日目の25日は到着次第、レンタル品と宿泊部屋の確認を行います。早めの夕食を終えると、全体オリエンテーションを30分、各地区のオリエンテーションを2時間（今年もやはり全カスピーチ研修、ROTEXの指導も入ります）、地区対抗パフォーマンス大会。2日目の26日は、朝食後8時にテラスに集まり開会式、白馬スノーフィールドへ移動して終日スキー・ボードを堪能（白馬RCの方、白馬高校の学生による指導）、夕食後に交換学生の交流会。3日目の27日は、正午までスキー・ボードを楽しみ、ホテルに戻り閉会式、その後荷物をまとめて帰路につきました。

学生は、この充実感に満ちた疲労感の中で、ロータリー青少年交換事業の壮大さと奥深さを実感し、自分たちの将来の希望・夢を叶えるために、更なる努力することを心に誓ったと思います。



2018-2019年度 地区事務所・ガバナー事務所 案内

URL <https://www.rid2630.jp/>

地区事務所	〒500-8212 岐阜県岐阜市日野南3丁目5-16 TEL 058-248-9724 FAX 058-248-9725 E-mail branch@rid2630.org	執務時間 9:30~17:30 (土・日・祝日 休務)
ガバナー事務所	〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光2695-2 岐阜都ホテル3階 TEL 058-210-2630 FAX 058-210-2631 E-mail 1819@rid2630.org	執務時間 10:00~15:00 (土・日・祝日 休務)